

2006.5.6 《ニュースリリース》

2006.5.6 トヨタ自動車 2010年に1千万台突破!

トヨタ自動車が2010年に単体で1030万台の自動車販売する計画を発表した。05年に比べて中国を含むアジアで2倍に拡大。北米では35%アップし、国内でも7%アップし、これが実現すれば10年までに、世界最大のゼネラルモーターズを単体で抜いて世界最大級の1千万台を販売するメーカーになる。(2006.5.3日経掲載)

【2004米オートモーティブニュース調査・世界自動車メーカー販売台数】

ゼネラルモーターズ(808万台) トヨタ自動車(670万台) フォード(643万台)  
フォルクスワーゲン(507万台) ダイムラークライスラー(471万台)  
プジョー(337万台) 現代自動車(332万台) 日産自動車(329万台)  
ホンダ(319万台) ルノー(248万台)

2006.5.6 温暖化現象で水不足時代到来

地球温暖化現象で世界の水不足が深刻になる時代が到来する可能性があるという。

「水と安全」が当たり前の日本でも水が豊富でなくなる日が来る危険をはらんでいる。2005年の夏は西日本や東日本太平洋岸で雨が少なく、異常渇水が多発した。年降水量が名古屋で1891年の統計開始以来最低を記録するなど、全国5地点で最低値を記録更新。京都市と神戸市も統計開始以来2番目に低く、四国や南西諸島の渇水は今春まで長引いたという。

一方で、その年の冬、北日本では戦後2番目の約140人を数えた「平成18年豪雪」に見舞われた。春夏秋冬異常気象が続いて止まない。地球温暖化が進むと。雨や雪として水が大量に降る地域と逆にあまり降らない地域の両極端になっていくと予測されている。その結果「洪水、渇水が今後世界各地で多発する。そうした現象がすでに起き始めている可能性がある」と観測する学者もいる。

東大の研究グループのある試算によると、2071~2100年には北アフリカやインド、ブラジル北部、インドネシアなどで洪水が頻発。現在は100年に一度の大洪水が5年に一度の割合で発生するという。日本や米国東部でも100年に一度の大洪水が10~30年に周期で発生。温暖化により海水温が上昇して、エネルギー源となる水蒸気が増えるためと考えられる。

反面、乾燥地域では降雨量が減少する上、蒸発が激しくなり、渇水に悩まされる事になるという。西アジアやアフリカ南部、北米、オーストラリア西部などで乾燥が進み、渇水に見舞われる頻度が激増するという。すなわち現在洪水が多い地域は益々洪水が増え、水不足に悩む地域は益々渇水が頻発するわけだ。

【水ビジネス】世界的な水不足が進めば水は貴重な資源となる。将来は原油のように商取引される財になり、市場を通じて供給されるようになる」とみている専門家もいる。関連事業への参入は相次いでおり、世界の水ビジネスはすでに数千億ドルに達しているといわれる。日本ミネラルウォーター協会によると、2005年の国内ミネラルウォーター出荷額は1408億円。うち263億円は輸入による「水」だ。海外では水の供給を政府や自治体の委託を受けた企業が手がける例が増えている。(2006.4.30日経掲載記事抜粋)